

八代のあゆみ

飛鳥	645	大化の改新 このころ興善寺廃寺がえられる。 (興善寺町) ①
奈良時代	710	奈良に都を移す。 このころ長田王が水島の歌をつくる。 (水島町)
	744	八代・芦北・天草に雷雨と大地震が起こる。 百済来地蔵堂がえられると伝わる。 (坂本町) ②
	770	芦北から白い亀が朝廷に献上される。
平安時代	794	京都の平安京に都を定める。
	795	妙見上宮ができると伝わる。(妙見町) ③
	799	釈迦院がえられると伝わる。(泉町) ④
	869	肥後に大風雨と地震が起こる。
	990	肥後に大風雨があり、大被害をうける。
	1160	妙見中宮ができると伝わる。(妙見町)
鎌倉時代	1167	平清盛が太政大臣となる。
	1185	平氏と源氏が争い、平氏がほろびる。
	1186	追っ手を逃れた平氏の一族が五家荘に住みついたと伝えられる。(泉町)
	1192	妙見下宮がえられる。(妙見町)
	1230	源頼朝が鎌倉に幕府をひらく。
	1275	十三重塔がえられる。(球磨郡でつくられ、のちに植柳上町に移される。) ⑤
	1333	鎌倉幕府がほろびる。

明言院に安置されている毘沙門天立像は、平安時代後期に作られたもので、熊本県を代表する立派な仏像の一つです。
毘沙門天は、仏法を守る四天王の一つで、甲冑を身につけた勇ましい姿で立っています。



木造毘沙門天立像 (国指定文化財)

国指定



市指定

① 興善寺廃寺跡(明言院)

現在、明言院のあるころは、奈良時代から平安時代に栄えた大きなお寺があったところ。発掘調査の結果、三重塔・金堂・講堂・回廊などの跡が発見されています。周辺から、この時代の瓦がたくさん出土しています。

市指定史跡 興善寺町



百済来地蔵堂の地蔵菩薩像

市指定

② 百済来地蔵堂

6世紀の中ごろ、朝鮮半島では高句麗、新羅、百済の3つの国が対立していました。
日羅は、百済に派遣された芦北国造阿利斯登の子で、その才能が百済王に認められ、高位につきました。日本の敏達天皇が、外交政策について日羅の意見を聞くことと呼び寄せたところ、事情が知られるのをおそれた百済の使者によって暗殺されてしまいました。坂本町百済来にある地蔵堂は、日羅が父に贈ったという地蔵菩薩像を、宝亀元年(770)日羅の子孫がこの地に堂を建て祀ったのがはじまりと伝えられています。

市指定文化財 坂本町百済来下



県指定

▲銅造釈迦如来立像 (県指定文化財)



④ 釈迦院

泉町柿迫

3333段の石段で有名な釈迦院は、延暦18年(799)、興善大師というお坊さんが開いたと伝えられる古いお寺です。本尊の銅造釈迦如来立像は、4月8日の花祭り(お釈迦さまの誕生を祝う儀式)のときだけ、拝むことができます。また、天台宗の守り神としてつくられた、日吉山王七神を表した男女の神像で、仏師長実が仁治3年(1242)につくったとされる木造男女神坐像もあります。



県指定

▲木造男女神坐像 (県指定文化財)



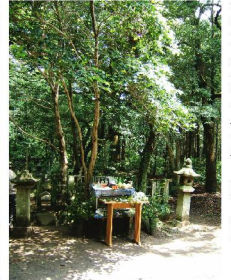
県指定

③ 八代神社(妙見宮)

県指定重要文化財 妙見町



妙見中宮跡 (市指定史跡)



妙見上宮跡 (県指定史跡)

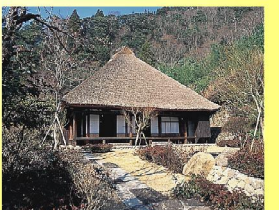
八代平野を一望できる横嶽の山頂に妙見上宮跡があります。延暦14年(795)、妙見神を祀る社殿が建てられたところ。妙見神は、北極星や北斗七星を神様として祀ったのがはじまりといわれ、亀蛇の背中に乗って海を渡ってきたとも伝えられています。
その後、永暦元年(160)平貞能によって、水無川沿いの中宮(妙見中宮跡)へ移されました。文治2年(1186)に大江高房によって、宮地に下宮が建てられ、これが現在の八代神社で、江戸時代まで「妙見宮」と呼ばれていました。
これらは、古くから八代の人々の信仰を集めてきた代表的な神社です。明治以降、「天御中主神」「国常立尊」を祭神とし、名称も「八代神社」と改められ、秋のお祭り「妙見祭」は多くの人出でにぎわいます。

平安時代・鎌倉時代の伝説が残る五家荘

平安時代、太宰府に左遷された菅原道真の死後、道真の2人の子が五家荘に移り住んだといわれています。兄の太郎は仁田尾に住み、弟の次郎は榎木に住み、左座家の祖先になったと伝えられています。
また、寿永4年(1185)の壇ノ浦の戦いで源氏に敗れた平氏一族のうち、平清盛の孫清経は九州へ落ち延び、緒方姓に改名して、白鳥山へたどり着き、その子孫が代々権原を支配したと伝えられています。
江戸時代、庄屋的役割をつとめた左座家、緒方家の屋敷は、幕府の役人が宿泊したと考えられる立派な造りで、当時の趣を残して修復、保存されています。五家荘の歴史を示す貴重な建物です。



緒方家



左座家

国指定

⑤ 十三重塔

国指定重要文化財 植柳元町



この塔は、もともと球磨郡湯前町の明導寺というお寺のあったところから移され、保存されているもので、各層には仏や鬼の顔が、力強い表現力で表されています。(二層が失われ、現在十一重)

県指定

⑥ 木造十一面観世音菩薩立像

県指定文化財 奈良木町(奈良木観音堂)



檜の「木造り」で、蓮華座の上に立っています。優しく美しい姿の仏像で、すぐれた仏師によってつくられたことがわかります。鎌倉時代後期から室町時代初期の作と考えられ、奈良木の地名はこの仏像が奈良から来たことによるといわれています。